



接図例

1	3	5	7
2	4	6	8

震度階級欄の()内の数字は計測震度です。

ゆれやすさ 凡例	震度階級欄の()内の数字は計測震度です。			
	震度 5 強 (5.0~5.4)	震度 6 弱 (5.5~5.9)	震度 6 強 (6.0) (6.1) (6.2) (6.3) (6.4)	震度 7 (6.5以上)
人間	非常な恐怖を感じる。多くの人が行動に支障を感じる。	立っていることが困難になる。	立っていることができず、はわないと動くことができない。	ゆれにほんろうされ、自分の意思で行動できない。
屋内の状況	棚にある食器類、書棚の本の多くが落ちる。タンスなど重い家具が倒れることがある。	固定していない重い家具の多くが移動、転倒する。開かなくなるドアが多い。	固定していない重い家具のほとんどが移動、転倒する。戸がはずれて飛ぶことがある。	ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。
屋外の状況	補強されていないブロック塀の多くが崩れる。多くの墓石が倒れる。自動車の運転が困難となり、停止する車が多い。	かなりの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。	多くの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。	ほとんどの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されているブロック塀も破損するものがある。

ひたちなか市で想定される震度階級は、()で囲まれた震度6弱と震度6強の2通りです。